

おとうさんだいすき

鹿児島県
出水市立荘小学校一年

さこぐち ゆう

「おとうさん。」

なつやすみにわたしは、おとうさんにあうたためにおかあさんたちといっしょにふくおかにいきました。

わたしのおとうさんは、おしごとのためにふくおかにたつたひとりです。

「ゆうちゃん、あいたかったよ。」

とおとうさんはこたえてくれたけど、なんだかげんきがないのがわかりました。ちよとしんばいになつて、

「どうしたの。」

とわたしはきくと、

「ちよと、あたまがいたいんだ。」

といっていました。わたしは、かわいそうなおとうさんと、おともいました。

でも、つぎのひ、おとうさんは、あたまがいたくてねつがあるのにすいぞくかんにつれていってくれました。わたしはおとうさんとしてをつなぎました。てをつないでたくさんのさかなたちをみてまわりました。イルカのショーのじかんにも、おとうさんのよこにすわりました。イルカのショーがはじまってイルカがいろいろなおとをみせてくれました。イルカをみながらよこにいるおとうさんのおともみしていました。おとうさんのからだのことがしんばいだつたけど、いつもこんなふうにおとうさんといっしょにいられたらうれしいのになあとおもいました。これまでのおとうさんは、わたしのためにいっしょうけんめいはたら

いています。しごとでねるじかんもないくらいだそうです。

そんなおとうさんのためにわたしは、ふくおかにいくまえに、たんじょうびプレゼントをじゅんびしていました。プレゼントは、おりがみでつくったケーキです。つくるのはとてもたいへんだつたけど、やさしくてだいすきなおうとうさんがよろこぶだろうとおもつて、がんばつてつくりました。プレゼントをわたしたとき、なんといつてよろこんでくれるかな、とどきどきしたきもちでした。

「おたんじょうび、おめでとう。」

いもうとといっしょにプレゼントをわたすと、わたしのおもつたとおり、にこつとわらつて、

「ありがとう。すてきなケーキだね。」

といつてくれました。いつもやさしいおとうさん。いそがしくてもからだのちよしがわるくてもあいてをしてくれるおとうさん。ふくおかからかえるひになると、だいすきなおとうさんとさよならするのがさみしくてたまりません。めからなみだがぼろぼろとこぼれてきます。「おとうさんもきつとおなじきもちかな。またくるからまつてね。」とこころにおもいながらかえりのでんしゃにのりました。そして、でんしゃのなかで、わたしは、「いつかそくみんなでいっしょにくらせるひがくるといいなあ。」とおもいました。そのひがくるのをたのしみにしていきます。それまで、からだをたいせつにしながら、おしごとをがんばつてね。わたしの、だいすきなおとうさん。